

立命館大学国際平和ミュージアムの2000年度事業記録

I 管理・運営概要

1. 組織

- 館長
安斎育郎
- 企画局長
兵藤友博
- 課長
友藤信明
- 職員
山辺昌彦
和田真
- 契約職員
加戸綾乃
齊藤里美
西田洋美
吉村涼子
渡辺久栄

2. 施設

地下一階

常設展示室	751.40 m ²
準備作業室	175.79 m ²
収蔵庫	92.56 m ²

一階

多目的ホール	327.60 m ²
事務室	90.95 m ²
ラウンジ	387.85 m ²

二階

館長室	33.62 m ²
会議室	313.57 m ²

3. 企画運営委員会

第1回 2000年5月31日

第2回 2000年11月1日

第3回 2001年2月21日

企画運営委員2000年度名簿

赤沢史朗	法学部
宇野木洋	法学部
藤岡惇	経済学部
山崎信三	経営学部 (前期)
三代沢経人	経営学部 (後期)
文楚雄	産業社会学部
Michel WASSERMAN	国際関係学部
白川一郎	政策科学部
富田美香	文学部
遠藤彰	理工学部
松岡正美	特任教授
井口和起	京都府立大学
吉田保	関西文理学院
広近直樹	教育研究事業部長
佐々木浩二	広報課

II 事業概要

1. 資料収集・保管

①寄贈・寄託・保管

博物館資料を、館藏品と寄託とのそれぞれについて、物資料・文書資料・図書に分け、常設展示テーマにそった分類番号を付し、出所先ごとに整理し、収納している。

2000年度に資料目録第1集のCD-ROM化が完成した。

②燻蒸

2000年度は、夏期休館中の8月11日～13日に、収蔵資料を包み込み方式で、エキボンガスを注入し、24時間の燻蒸をおこなった。

2. 展示

①常設展の参観者

入館者数は次表の通りである。

年度	個人	団体	全体
2000	10113	21453	31566

②常設展の更新

2000年度も、ミュージアム内部に、常設展のリニューアルを中心課題とする、国際平和ミュージアム高度化検討委員会をもうけ、討議をおこなった。

③特別展の開催

特別展の開催状況は以下の通りである。

●特別展：写真が語る20世紀一目撃者

i. 展示会

会期：2000年 5 月25日（木）～6 月15日（木）

会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス アクロ
スウイング 1 階

主催：朝日新聞社

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：（社）日本写真協会

日本写真家協会

滋賀県

大津市

草津市

協賛：富士写真フイルム

凸版印刷

キヤノン販売

協力：日本航空

参観者：6010人

ii. 講演会「フォトジャーナリストたちの証言」

日：2000年 6 月 2 日（金）

会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス プリズ
ム201教室

講師：梅津禎三（朝日新聞社文化企画局）

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参加者：180人

iii. 刊行物

感想文集

●特別展：日本人・オランダ人・インドネシア人一日

本占領下のオランダ領東インドの記憶展

i. 展示会

会期：2000年 8 月 1 日（火）～10日（木）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：オランダ国立戦争資料館

平和のための京都の戦争展実行委員会

立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：15000人

ii. 記念シンポジウム

日：2000年 8 月 1 日（水）

会場：国際平和ミュージアム・209会議室

報告者：エリック・ソーメルズ（オランダ国立戦争資
料館展示部長）

木村一信（立命館大学アジア太平洋大学教授）

中尾知代（岡山大学助教授）

参加者：110人

iii. 刊行物

解説書

写真・解説パネルを収録

* 「平和のための京都の戦争展」の中で開催

* シンポジウム報告を『立命館平和研究』第 2 号に収
録

●特別展：世界報道写真展 2000

i. 展示会

会期：2000年 9 月27日（水）～10月15日（日）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真財団

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

協賛：キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社

イーストマン・コダック社

KLMオランダ航空

参観者：7012人

ii. 展示会

会期：2000年10月18日（水）～29日（日）

会場：立命館アジア太平洋大学 スチューデント・ユ

ニオン スチューデント・ホール

主催：朝日新聞社

世界報道写真財団

立命館大学国際平和ミュージアム

後援：オランダ大使館

協賛：キャノン株式会社

キャノン販売株式会社

イーストマン・コダック社

KLMオランダ航空

参観者：2027人

iii. 刊行物

感想文集

●特別展：戦争と芸能

i. 展示会

会期：2000年10月26日（木）～11月16日（木）

会場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

参観者：3137人

ii. 記念講演会

日：2000年10月29日（日）

会場：立命館大学・末川記念会館ホール

基調講演：木津川計（立命館大学産業社会学部教授）

鼎談：木津川計

竹本浩三（吉本文芸館館長）

安斎育郎（国際平和ミュージアム館長）

参加者：85人

iii. 刊行物

解説パンフレット

感想文集

*展示会準備の調査や講演会の成果を『立命館平和研究』第2号に収録

3. 教育・普及活動

①学芸員実務実習

2000年度の学芸員実務実習は、8月2～6日と8日の日程で、立命館大学5名、京都橘女子大学4名、東京都立大学大学院1名の合計10名を受け入れ、特別展展示プランの作成、資料整理、受付業務などを中心におこなった。

実習生名と作成した展示プランは以下のとおりである。

権田さやか 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
子供たちの見たホロコースト

藤井敏正 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
戦略爆撃—市民の犠牲

山辺秀朗 立命館大学文学部史学科日本史学専攻
日米開戦への分岐点—1941年の日米外交

森木ゆうこ 立命館大学文学部史学科西洋史学専攻
戦争と血液

中島大輔 立命館大学文学部地理学科地理学専攻
郊外リゾートと15年戦争

阿部史 京都橘女子大学文学部歴史学科
杉原千畝と6000人のビザ

関田恵子 京都橘女子大学文学部歴史学科
沖縄戦の犠牲者たち

奥下徳子 京都橘女子大学文学部歴史学科
戦争のための娯楽

佐々木綾乃 京都橘女子大学文学部歴史学科
武断統治下の教育

山辺春彦 東京都立大学大学院社会科学研究科政治
学専攻

京大事件—自由主義の抵抗と敗北

②研修受け入れ

2000年度も国際協力事業団の「博物館技術コース」の研修に協力した。

2000年9月14日に、「テーマ展示のあり方」というテーマのもとに見学研修を受け入れた。内容は、館長の講演と常設展、収蔵庫・作業室などの見学である。

また2000年12月12日～15日の日程で、中国の吉林大学地質宮博物館館長の咎淑芹氏を受け入れ、「大学博物館の運営」のテーマで専門研修を実施した。立命館大学国際平和ミュージアムとともに、京都大学総合博物館、花園大学歴史博物館、池坊短期大学むろまち美術館を見学し、その運営状況を学ぶとともに、日本の大学博物館の現状と課題を把握してもらうような研修をおこなった。

4. 交流事業

日本平和博物館会議

1999年の第6回平和博物館会議以降第7回会議まで、立命館大学国際平和ミュージアムが事務局となり、

2000年7月に『平和博物館ニュース』第13・14号、合併号を編集・発行した。

第7回平和博物館会議は、沖縄県平和祈念資料館を開催館として、2000年9月6・7日に沖縄県で開催され、立命館大学国際平和ミュージアムも参加した。この会議において名称を日本平和博物館会議と改称することを決定した。

5. 刊行物など

①報告書など

プランゲ展の報告書、『占領期の言論・出版と文化—〈プランゲ文庫〉展・シンポジウムの記録』を早稲田大学との共同編集で、2000年8月18日に刊行した。

1999年度から取り組んだ「資料目録 第1集」と「梅本忠男写真集」のCD-ROM化が完成した。

②紀要

『立命館平和研究—国際平和ミュージアム紀要—』第2号を2001年3月25日に刊行した。

内容は以下の通りである。

特集1 戦争と芸能

戦時下の芸能（木津川計）

戦争と演芸（竹本浩三）

戦時下の音楽家・映画人の価値観を考える（安斎育郎）

戦時下における大衆芸能に関する考察（相原進）

戦争中の能楽（河村隆司）

戦中戦後の箏曲界と戦争体験—箏屋「琴伝」畑伝兵衛氏の記憶—（畑伝兵衛）

特集2 日本とオランダのインドネシア支配を考える
展示会「オランダ人・日本人・インドネシア人」の意義と評価（エリック・ソーメルズ）

インドネシアにおける日本統治と「南方徴用作家」—阿部知二を中心に—（木村一信）

日本・オランダ・インドネシア三国間のわだかまり（中尾知代）

立命館大学国際平和ミュージアムの事業記録—開館準備から1999年度まで—（山辺昌彦）

③だより

『国際平和ミュージアムだより』を刊行し、事業報告、関係者の随想、推薦本・収蔵資料・入館状況の紹

介などを掲載している。

2000年度の刊行状況は以下の通りである。

通巻号数	巻	号	刊行年月日
20	8	1	2000年8月25日
21	8	2	2000年12月25日
22	8	3	2001年3月25日

主な記事は以下のようなものである。

●特別展報告

号	回	特別展名
20	28	写真が語る20世紀—目撃者
21	29	日本人・オランダ人・インドネシア人
21	30	世界報道写真展 2000
22	30	世界報道写真展 2000 APU
22	31	戦争と芸能

●案内

号	題
20	『立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要』第1号紹介
21	『占領期の言論・出版と文化—〈プランゲ文庫〉・シンポジウムの記録』刊行
21	「資料目録データベース」「梅本忠男写真集」のCD-ROM作成
22	『立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要』第2号刊行

●館長あいさつ

号	回	題
20	16	「太平洋戦争をめぐる日米対話」に出席して
21	17	シドニーオリンピック雑感
22	18	成人式に思う

●企画（運営）委員連載

号	回	題 (執筆者)
20	12	「戦争と平和」エッセイ風ことわざ考 (山崎信三)
21	13	映画都市との格闘 (富田美香)
22	14	戦争と歌姫 (Michel WASSERMAN)

●連載 リニューアルに向けて

号	回	題 (執筆者)
22	1	国際平和ミュージアムについて思うことあれこれ (宇野木洋)

●ミュージアムおすすめの一冊（執筆者は山辺昌彦）

号	回	書名
20	20	永原慶二編『「自由主義史観」批判』
21	21	小柴昌子著『戦争と教科書』

22	22	由井正臣著『大日本帝国の時代』
----	----	-----------------

●スポット ミュージアムの収蔵品
(執筆者は加戸綾乃)

号	回	題
20	16	戦時下の国民歌謡
21	17	肉弾三勇士の像
22	18	戦争と切手

●その他記事

号	題 (執筆者)
20	21世紀—これから百年—人類は地球を破滅から救えるか (友藤信明)
21	夏期課研修旅行報告 (吉村涼子)
21	「あの戦争を伝えたい」～切り絵冊子のこと (布川庸子)
21	修学旅行での職場体験の記録 (山辺昌彦)
22	特別展「戦争と芸能」の学生見学について (土屋礼子)
22	第7回平和博物館会議参加記 (山辺昌彦)
22	「手塚治虫展—世紀をつなぐ作品とメッセージ」を企画して (吉村和真)

●これら以外に、「平和へのメッセージ」(常設展感想文など)、「ある日ある時ミュージアム」(常設展での平和友の会によるガイドの状況)、入館状況、団体見学状況、事業予告などを掲載している。

6. 資料の特別利用

2000年度の展示会などへの主な貸出状況は次の通りである。

●'00平和のための戦争展わかやま

主催：実行委員会

会場：和歌山ビップ愛

会期：7.27～30

貸出：資料55点

●2000東大阪平和のための戦争展

主催：実行委員会

会場：東大阪市民会館

会期：7.29・30

貸出：資料19点

●全京都建築労働組合伏見支部戦争展

主催：全京都建築労働組合伏見支部

会場：支部事務所

会期：7.30

貸出：資料20点

●'00平和のための京都の戦争展

主催：実行委員会

会場：立命館大学国際平和ミュージアム

会期：8.1～10

貸出：資料41点

●特別展 女性と子どもたちの戦争

主催：水戸市立博物館

会場：水戸市立博物館

会期：8.1～31

貸出：写真13点

●第8回佐賀市平和展

主催：佐賀市

会場：佐賀市交流センター

会期：8.3～6

貸出：写真パネル17枚

●寺院と戦争展

主催：京都宗教者平和協議会

会場：檀王法林寺

会期：8.4～6

貸出：資料21点

●「戦争と青春」

主催：高知市

会場：高知市立自由民権記念館

会期：8.6～15

貸出：写真パネル1組

●平和パネル展

主催：大山崎町

会場：役場庁舎ロビー

会期：8.8～21

貸出：写真パネル13枚

●向日市民平和と人権のつどい 平和展

主催：向日市

会場：向日市民会館

会期：8.11

貸出：写真パネル1組

●平和への道しるべ展

主催：大津市

会場：明日都浜大津

会期：8.12～14

貸出：写真パネル1組

●宮津・与謝平和の集い

主催：実行委員会

会場：加悦町民会館

会期：8.19

貸出：資料32点

●能勢町人権と平和のつどい

主催：能勢町

会場：ふるさと会館

会期：8.26

貸出：写真パネル1組

●世紀をむすんでひらく展覧会—京都府この100年—

主催：京都府

会場：京都府庁

会期：9.30～11.5

貸出：資料128点

●企画展 戦争と平和の20世紀展

主催：姫路市平和資料館

会場：姫路市平和資料館

会期：10.7～12.17

貸出：資料18点 写真パネル 3組

●特別展 亀岡の20世紀

主催：亀岡市文化資料館

会場：亀岡市文化資料館

会期：11.3～12.10

貸出：資料 1 点

●平和を考える展示

主催：白い鳩保育園

会場：白い鳩保育園

会期：11.12

貸出：写真パネル12枚

●京都生協下京「戦争展」

主催：京都生協下京区行政区委員会

会場：京都生協下京集会所

会期：1.30

貸出：資料 7 点

(文責 山辺昌彦)

編集後記

研究紀要の第3号には、立命館大学国際平和ミュージアムの2001年度の特別展「手塚治虫展一世紀をつなぐ作品とメッセージ」に関連する特集を組み、記念講演会と鼎談の記録とともに関連論文を収録しました。特集外では、国際平和ミュージアムの扱っているテーマに関連する論文を、学外の方も含めて書いていただきました。安斎育郎館長の論文は、モンタナ州立大学で開催されたマンスフィールド会議での講義原稿を加筆訂正したものです。岡田英樹立命館大学国際平和ミュージアム企画局長の論文は、「満州国」の文学者への検閲という、氏の年来の研究テーマに関する論文です。飯田美季子氏の論文は2000年度に大阪市立大学に卒業論文として提出されたものを書き直したものです。論文以外に、昨年度に引き続き2000年度の立命館国際平和ミュージアムの事業記録を掲載いたしました。

収録しました論文や報告などは、筆者や報告者の個人の責任で書かれたもので、必ずしも立命館大学国際平和ミュージアムの公式な見解を示すものではありません。

編集は、安斎育郎館長を責任者とし、岡田英樹企画局長、山辺昌彦による編集委員会が担当しました。

今回の紀要は立命館大学国際平和ミュージアムの特別展に関連するもののみではなく、広いテーマの論文を収録し、特に若手の方の投稿論文も掲載することができました。今後とも平和博物館の研究紀要にふさわしく、より開かれたものにしていきたいと考えております。立命館関係者はもちろん、学外の方も、積極的な投稿をあらためてお願いいたします。

投稿規定は、以下の通りです。

テーマは平和に関するものです。

原稿のジャンル別の分量は次の通りです。

論文	400字30～70枚
資料紹介	400字10～20枚
書評	400字10～15枚
時評	400字10～15枚

原稿の様式は横書きです。

原則として、ワープロソフトによるものとし、24字×45行を1ページに印刷したものと、テキストファイルで保存したフロッピーとを提出してください。

投稿原稿については、紀要編集委員会が審査し、掲載、一部書き直し、返却などの結果を、投稿者に連絡いたします。